

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	学習サポートscrum			
○保護者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～	令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数)	26
○従業者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～	令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 21日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「自立」を目標に社会性や協調性を育み、彼らの可能性を広げられるような支援を行っている。	「小さな出来たが未来を大きく変える」をモットーとし、自己管理やルールを守ること等、出来ることから少しずつ習慣化することで「自立」に向けてたくさんの「出来た」を体感して頂きながら支援を実施している。	保護者様、利用者様のneedsに合った支援がご提供できるよう、勉強会や研修等も定期的実施し、職員個々のスキルアップも出来るよう努めていきたい。
2	Iシステムを用いて、スモールステップで学習するだけでなく、エビデンスに基づいた支援を行っている。	一人一人に合わせた学習をシステムが分析し、問題を選べるようになっていて、常に個人のレベルに合った学習を行っている。苦手意識が高い学習を「わかる、やってみる、出来る」のスモールステップでワクワク・楽しく取り組んで頂けるよう、職員も意識しながら支援している。	子どもたちをただお預かりするだけでなく、学習療育を中心とした「エビデンスに基づいた療育」をご提供できるよう引き続き記録等を徹底し、支援していく。
3	学習だけでなく、体験・活動プログラムを企画し、利用者様に様々な経験をして頂くことが出来るよう支援している。	学習以外の内容も積極的に取り組んでおり、5領域の観点で様々な体験・経験をして頂けるようなプログラム立案に努めている。また、公共交通機関の使い方やお金の計算なども実際に体感しながら、生活面への支援も行っている。	プログラムが固定化されないよう注意し、職員間で様々な企画を持ち出しながらたくさんの体験・経験をして頂きながら、社会の一員として自立が出来るよう、ひとりひとりの特性に合った支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難・防災訓練実施等の周知が出来ていない。	契約時にはご説明(ご案内)を徹底しているが、実際の訓練等には利用曜日の都合により参加頂けていない利用者様もいる。その為、参加頂いた利用者様のみの周知となっていると考えられる。	引き続き、ご契約時やモニタリング等でのご説明(ご案内)を実施し、参加の有無にかかわらず、事業所内での取り組み等をLINEやSNSを通じて情報を発信し、周知して頂けるようなしくみを検討していく。
2	地域の方との交流が少ない。	感染症の流行等でなかなか事業所外の方と関わる機会を作ることが出来ていなかった。	昨年度より、近隣の企業や警察にご協力をいただいております。今後も引き続きこのような機会を設けながら、子どもたちに様々な経験をして頂けるよう努めていく。
3	保護者同士の交流会等を実施できていない。	保護者会は実施しており、また各保護者様とは送迎時やモニタリング等でお話をする機会は設けられている。一方、保護者様によりご意見が異なる為、保護者同士の交流会やイベント等は、開催が出来ていない。	今後はアンケート等で保護者様のご意見を伺いながら、必要に応じて開催を検討していく。